

# 農業を福祉の視点で成長させる

市議会教育福祉委員会は20日、障がい者を雇って、メネギなどの生産を拡大した浜松市の京丸園株式会社（社長・鈴木厚志）を視察しました。

京丸園の鈴木社長は4百年続く農園の13代目です。1996年から障がい者を雇用。きつ

くは、特別支援学校の先生が2人の生徒を連れて「メネギ農園で働かせてもらえませんか」と鈴木社長に声をかけたことから

鈴木社長は「私は最初、障害のある人は、うちでは働けないと思っていました。トレー洗いを頼んだとき、1時間に1枚も洗えなかったから」と話します。特別支援学校の先生は、鈴木社長に「ちゃんと洗ってと言われなくても、わかりませんよ。スポンジで5回こすって下さいと言えば伝わりますよ」とアドバイスしました。生徒さんにわかりやすく伝えると「1、2、3、4、5」と数を声に出しながらトレーを次から次へと洗ってくれました。

## 障がい者を雇って職場改善

浜松市京丸園



障がい者が働ける工夫を説明する鈴木社長（写真中央、8月20日）

## 「好き」を見つけて育てる学校

市議会教育福祉委員会は21日、「子ども自身が自ら学ぶ、好きを見つけて育てる学校」をめざす三河サドベリースクール・シードーム（岡崎市）を視察しました。

三河サドベリースクールは、2011年に開校したフリースクールです。すべての事柄は、生徒とスタッフの話し合いによって決めます。この学校に「先生はいません。代わりに「スタッフ」と呼ばれる大人が生徒たちのサポート役を担います。ミーティングで何らかの意思決定を行うとき、「大人の意見に従わなければならぬ」といった暗黙のルールはありません。

三河サドベリースクールのスタッフ・辻さんは「今回の視察

の受け入れもミーティングで決めました」と話し、学校の紹介をしました。現在の生徒は9名（9歳から16歳）、スタッフは5名。月曜から金曜、午前9時30分から午後4時で、生徒は好きな時間に来て帰ります。

中学2年生の男子は「学校に行けなくなった小学校4年からここに通っている。音楽が好きだからギターを練習している。三重県の貨物鉄道博物館でボランティアしている」と話してくれました。日隈市議は「自ら学

視察に参加した日隈市議は「みんなが働きやすくなる工夫が大事だと実感した」と話します。

鈴木社長は「伝え方を変えただけで今まで働けないと思っていた人たちが活躍する姿を見て、私たちが新しいやり方をさがして変わっていけば、もっと多くの人たちといっしょに仕事ができる。障害のある人が仲間に加わるようになると、不思議と若い人たちや高齢者、女性が集まるようになり、ついに百人が働く農園になった」と話します。

京丸園は毎日、全国44力所の市場に「姫ねぎ」「姫みつば」「ミニちんげん」「サラダ水菜」などの野菜を送っています。京丸園で働く人は、役員4名、社員10名、パート85名の総数99名。このうち障がい者は24名（知的10名、身体4名、精神6名、発達4名）です。



▲大学時代に全国のフリースクールをまわり「縁あってこのスタッフになった」と話す辻さん（写真中央、8月21日）

ぶ子どもの強さを感じた」と話します。

## 岡崎市フリースクール こどもが自ら学ぶ